

乳房の穿刺吸引細胞診について

横浜青葉台クリニック院長 小田切邦雄

穿刺吸引細胞診とは、超音波検査で腫瘍が見つかったときに良性か否かを診断するために
行う検査です。

細い針で腫瘍を刺して注射器で細胞を吸引し、がん細胞の有無を調べます。この針は点滴
や採血をする針と同じ位の太さの針で、超音波で腫瘍の位置を確かめながら刺入します。
超音波で腫瘍と針を同時に見ながら針を刺すので、正確に問題部分の細胞を採取出来ま
す。

採取した細胞を細胞診の専門家が顕微鏡で調べ、悪性か良性かの判断をします。

まれに血腫を形成して、検査後痛みが生じることがありますが、通常、検査後の入浴など日
常生活上の制限は必要ありません。

当院では、ここまでの検査を行います。

細胞診では細胞の採取量が少ないため、まれに良性か悪性かの判定が困難なことがあ
ります。悪性の可能性を捨てきれないときは、生検(組織検査)が行われます。ばらばら
の細胞を調べる細胞診に比べ、組織を(細胞の塊)採取して調べる検査ですので、確実な
診断が可能です。

生検(組織検査)には以下の方法があります。

1)マンモトーム生検(吸引補助針生検)

太めの針で組織を瞬間的に採取します。

外科的生検に比べ、乳房の傷が小さく乳房の変形等をきたさない、低侵襲の検査です。

2)外科的生検

メスで乳房を切開し組織をとる方法です。

生検(組織検査)が必要と判断したときは、上記の検査ができる病院を紹介いたします。